

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 16日

中施策事業名	後期高齢者福祉医療事業	部課名	健康福祉部・保険医療課
		作成者	近藤 有紀子

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	障害者、寝たきり、一人暮らし等のうち一定の要件を満たす後期高齢者医療保険加入者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障害等を有する高齢者及びその世帯の医療費負担が軽減されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉医療費支給 福祉医療費現金給付

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
後期高齢者福祉医療の受診件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	48,600	48,600	48,600	52,400	52,400
	実績値	49,609	50,263			
単位	件					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		149,207千円	146,515千円		
人件費	a 事業費合計	149,207千円	146,515千円	153,785千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		63,466千円	61,169千円	60,852千円	
③ コスト(①-②)		85,741千円	85,346千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,246円	1,240円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>A</p> <p>給付内容は県内標準レベルであり、対象者やその世帯の医療費負担軽減に寄与できていると思われる。</p> <p>令和3年度と比較し、令和4年度の受診件数が増となっているが、コロナの影響による受診控えが徐々に緩和されてきたことが要因であると考えられる。</p> <p>評価が受動的になるのは、受給者数や医療費水準の変動等が受診件数や給付費の数値として、評価指標・コストに直結するからである。</p>
------------------------------------	--

■改善案の検討

<p>現年度に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>給付件数や給付額の増大が医療費負担軽減となる一方で、受給者による過度の通院等が市の財政負担（コスト増）につながることから、引き続き適正な受診を勧奨していくことが必要である。</p>	
<p>翌年度以降に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>今後も受給者証を使用するにあたり、過度な受診をしないよう注意喚起を促す文言を受給者証に明記するなど、適正な受診を勧奨していく。</p>	
<p>今後、改善・拡大する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、実施すべき新規事業</p>	<p>事業名(仮称)</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、休廃止する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>

中施策評価書

作成日 令和05年 10月 30日

中施策事業名	子ども医療事業	部課名	健康福祉部・保険医療課
		作成者	近藤 有紀子

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	高校生以下の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	高校生以下の市民を有する世帯の医療費負担が軽減されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉医療費支給 ・ 福祉医療費現金給付

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
子ども医療の受診 件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	149,800	149,800	149,800	148,200	148,200
	実績値	131,652	134,920			
単位	件					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		314,535千円	341,718千円		
人件費	a 事業費合計	314,535千円	341,718千円	370,086千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		60,307千円	63,321千円	73,717千円	
③ コスト(①-②)		254,228千円	278,397千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		3,694円	4,045円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A</p> <p>対象者やその世帯の医療費負担軽減に寄与できていると思われる。</p> <p>令和3年度と比較し、令和4年度の受診件数が増となっているが、コロナの影響による受診控えが徐々に緩和されてきたことが要因であると考えられる。</p> <p>評価が受動的になるのは、受給者数や医療費水準の変動等が受診件数や給付費の数値として、評価指標・コストに直結するからである。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>給付件数や給付額の増大が医療費負担軽減となる一方で、受給者による過度の通院等が市の財政負担（コスト増）につながることから、引き続き適正な受診を勧奨していくことが必要である。</p> <p>給付内容について、入院にかかる助成対象を令和4年10月から高校生等までに拡大した。令和5年度に高校1年生（16歳）になる児童の保護者あてに案内通知を送付し、制度の周知を図る。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<p>今後も受給者証を使用するにあたり、過度な受診をしないよう注意喚起を促す文言を受給者証に明記するなど、適正な受診を勧奨していく。</p> <p>また、助成対象の拡大についての周知を適切に行う。</p> <p>加えて、令和6年度より、通院にかかる助成対象についても高校生等まで拡大するため、令和5年度中にシステム改修や対象者への周知等を遅滞なく行っていく。</p>	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 16日

中施策事業名	心身障害者医療事業	部課名	健康福祉部・保険医療課
		作成者	近藤 有紀子

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	一定以上の障害を有する方（後期高齢者福祉医療対象者のぞく）
⑤中施策事業の意図 <small>(対象をどのようにしたいですか)</small>	障害をお持ちの方及びその世帯の医療費負担が軽減されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉医療費支給 ・ 福祉医療費現金給付

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
心身障害者医療の 受診件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	39,200	39,200	39,200	42,100	42,100
	実績値	44,387	47,558			
単位	件					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		194,010千円	185,360千円		
人件費	a 事業費合計	194,010千円	185,360千円	187,129千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 <small>(事業費に含む)</small>	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		65,365千円	63,845千円	72,850千円	
③ コスト(①-②)		128,645千円	121,515千円		
市民一人あたりコスト <small>(③/市の人口(評価対象年度末時点))</small>		1,869円	1,766円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A</p> <p>給付内容は県内標準レベルであり、対象者やその世帯の医療費負担軽減に寄与できていると思われる。</p> <p>令和3年度と比較し、令和4年度の受診件数が増となっているが、コロナの影響による受診控えが徐々に緩和されてきたことが要因であると考えられる。</p> <p>評価が受動的になるのは、受給者数や医療費水準の変動等が受診件数や給付費の数値として、評価指標・コストに直結するからである。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	給付件数や給付額の増大が医療費負担軽減となる一方で、受給者による過度の通院等が市の財政負担（コスト増）につながることから、引き続き適正な受診を勧奨していくことが必要である。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	今後も受給者証を使用するにあたり、過度な受診をしないよう注意喚起を促す文言を受給者証に明記するなど、適正な受診を勧奨していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 16日

中施策事業名	母子・父子家庭医療事業	部課名	健康福祉部・保険医療課
		作成者	近藤 有紀子

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	高校卒業相当までの子を扶養し一定の要件を満たす母子または父子家庭
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	母子・父子家庭の医療費負担が軽減されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉医療費支給 ・ 福祉医療費現金給付

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
母子・父子家庭医療の受診件数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	15,400	15,400	15,400	14,300	14,300
		実績値	13,122	12,540			
単位	件						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			43,575千円	48,777千円	
人件費	a 事業費合計		43,575千円	48,777千円	60,323千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			19,352千円	22,487千円	29,305千円
③ コスト(①-②)			24,223千円	26,290千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			352円	382円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A</p> <p>給付内容は県内標準レベルであり、対象者やその世帯の医療費負担軽減に寄与できていると思われる。</p> <p>令和3年度と比較し、令和4年度の受診件数は減となったが、1件あたりの医療費単価が増え、助成金額としては増となっている。</p> <p>評価が受動的になるのは、受給者数や医療費水準の変動等が受診件数や給付費の数値として、評価指標・コストに直結するからである。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	給付件数や給付額の増大が医療費負担軽減となる一方で、受給者による過度の通院等が市の財政負担（コスト増）につながることから、引き続き適正な受診を勧奨していくことが必要である。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	今後も受給者証を使用するにあたり、過度な受診をしないよう注意喚起を促す文言を受給者証に明記するなど、適正な受診を勧奨していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等